令和７年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業
事後報告書

◆名前：小谷　天

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
（１，　０００字程度）

「文化の力で国境を越える」今年、友好都市提携 35 周年という記念すべき節目の年に、私は高松市の代表として南昌市を訪れる貴重な機会をいただきました。姉妹都市の同世代の方々と交流を重ねる中で将来、国際関係を志す自分にとって「生きた国際感覚」を学ぶかけがえのない 6 日間となりました。現地では、VR 産業基地や陶磁器工房を訪れ、南昌市が持つ最先端の産業と長い伝統文化の両面を体感しました。景徳鎮の陶磁器づくりでは、実際にろくろを回して形を作る難しさに触れ、完成品に込められた職人の技術の高さを実感しました。また、江西料理は中国でも特に辛いと聞きましたが、豚の爪など普段は食べない食材にも挑戦し、食文化の多様さを全身で味わいました。食事の場では、中国式の乾杯の作法や自分の名前の中国語での意味を教えてもらうなど、言葉を越えて温かく迎えていただいたことが忘れられません。
「対話江西」では、海外から中国へ留学している学生の話を聞き、情報の少なさや偏見を乗り越えて実際に現地に足を運ぶことの大切さを学びました。そこで改めて、若者の友情こそが未来の国際交流の架け橋になるのだと強く感じました。私自身も、中国について得ていた知識の多くはニュースやインターネットを通したものでしたが、今回の訪問で人々の暮らしや文化を直接体験し、現地の方々の優しさに触れることで、固定観念が解けていくのを実感しました。正しい情報を自ら体験し、自分の言葉で伝えることこそが、国際理解を広げる第一歩だと確信しました。
また、日中友好会館を訪問した際、日本文化に興味を持って日本語を一生懸命学ぶ方々の姿に感銘を受けました。夜に行われた「日中青年友好交流会」では、私たちが披露したソーラン節やダンスメドレーに、皆さんが大いに盛り上がってくださり、文化の力で心が通じ合う瞬間を体験しました。ここでも友情の輪が広がり、文化交流の意義を肌で実感することができました。
電動バイクが溢れる街並み、夜遅くまで賑わう露店、買い物中に見かけた日本の制服コスプレ姿など、驚きと発見に満ちた南昌での毎日は、空港で感じていた不安を忘れてしまうほど濃密で楽しい時間でした。どこを振り返っても笑顔に包まれ、人に恵まれた 6 日間は、二度とない経験となりました。今回の交流を通じて、異文化に触れる楽しさを改めて知り、将来は世界の架け橋として国際交流に積極的に関わりたいという思いが一層強まりました。
最後に、このような貴重な機会を与えてくださった南昌市の皆さま、高松市関係者の皆さま、そして共に学び合った仲間に心より感謝申し上げます。この経験を原点に、若者の友情を力に、日中の友好関係をさらに深めていけるよう努めていきたいと思います。